

「殻を食べる幼虫」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

モンシロチョウの卵から孵化した幼虫が、最初に食べるのは、キャベツの葉ではない。ちょっと前まで自分が住んでいた、卵の殻を食べるのだ。



孵化したばかりの小さな幼虫は、すぐに戻ってきて、その半透明の殻を食べ始める。これを写真に撮るのは難しいが、これもコンパクトデジカメで撮影が可能とわかった。それにしても眼が大きい！



殻はもちろん、孵化したばかりの幼虫も半透明なので、透過光で撮影するほうが良い。この写真も、幼虫の後ろ側に光源(乾電池で作動する小型の蛍光灯)を置いて撮影したものである。光源の明るさや、撮影の露出(シャッタースピードや絞り)を変えることで、ベストの写し方を探る。ただ、被写体が非常に小さいので、フォーカスが非常に難しい。



反射光で撮影すると、幼虫本来の色は再現できるが、やはりシャープさに欠けるようだ。



蝶の幼虫が殻を食べる理由を子どもたちに聞くと、非常に面白い答えが返ってくる。

「キャベツの葉を食べる練習をしてる。」

「殻に栄養がたくさんあって、おいしい。」

「証拠を消して、敵に見つからないようにしている。」

「ずっとせまいところにいたので、ストレス解消！」

実はこの理由は諸説あって、よくわかっていないようだ。一説によると、産卵時に卵の殻に付着した、親蝶からの微生物が、幼虫の消化を助けていると言う。生物のすべてのふるまいには、必ず理由がある。この行動にも、きっと大切な意味があるのだろう。